

研究者・R&D部門スタッフが押さえておくべき： 研究開発テーマ評価法の基礎知識

～テーマ評価における代表的評価法と評価の全体体系を学ぶ～

■日時■ 2018年 6月6日 水曜日 13:00～17:00

■会場■ 東京・麹町 一般社団法人 企業研究会 セミナールーム

■講師■ ベクター・コンサルティング株式会社 代表取締役社長 浪江 一公 氏

大手電機メーカー、アーサー・D・リトル(ジャパン)(株)、(株)フュージョンアンドイノベーション等を経て、現在ベクター・コンサルティング(株) 代表取締役社長 経営及び技術マネジメントに関するコンサルティングにおいて20年以上の経験を有す。日本工業大学大学院 技術経営研究科教授を兼任。
北海道大学工学部、米国コーネル大学経営学大学院(MBA)卒 著書・訳書に「プロフィット・ピラミッド 超高収益を実現する14のシンプルな法則」(著書)ダイヤモンド社(韓国語及び中国語でも出版)、「エマソン 妥協なき経営」(訳書)ダイヤモンド社、その他共著・共訳、雑誌への寄稿多数近著(翻訳):「ステージゲート法 製造業のイノベーションマネジメント」(原著「Winning at New Products」ロバート・クーパー著) 英治出版 2013年

■受講対象■ 研究所・研究開発部門、技術企画部門、経営企画部門において：
研究開発テーマ評価、技術・事業戦略の立案などに携わる皆様 など

■本セミナーの特徴 ～以下3つの方針・目的で本セミナーを進めます～

- ✓ 研究/開発者にとってテーマ評価上、押さえておくべき代表的評価法のコンセプトとそれらを利用した評価の全体体系を学びます。
- ✓ それらコンセプト・用語を学ぶにあたり、研究開発テーマ評価の「取り巻く環境」「問題」を理解した上で、それぞれの評価法の活用ポイントとその重要性の理解を図ります。
- ✓ 本セミナー受講後には、「研究者・開発者として知らなければならない代表的・基本的評価法の基礎と全体体系をきちんと理解している」と言えるレベルの達成を目指します。

《代表的な研究開発テーマ評価法のポイントと特徴》

- ・非財務的手法:直感法 : ・対話法 ・スコア法 ・STAR法 ・BMO法
- ・財務的手法 : ディスカウント・キャッシュフロー法、回収期間法
- ・ステージゲート法(全体評価体系として) 等

●参加要領●

●受講料● 1名(税込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

●当会ホームページからお申込み下さい。FAX、または下記担当者宛E-mailからもお申込み頂けます。

企業研究会セミナー

- お申込み後(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- お申込み後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願い致します。
- 最少催行人数に満たない場合ほか、諸般の事情により開催を中止させていただく場合もございます。
- 申込書を送信いただく際は、ご使用のFAX機の操作方法(O発信の有無など)をご確認の上、FAX番号のお間違えにご注意ください

一般社団法人 企業研究会

担当: 早瀬 E-mail: hayakan@bri.or.jp
102-0083 千代田区麹 5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F
TEL 03-5215-3513 FAX: 03-5215-0951

弊会ホームページからのお申込みが便利です。https://www.bri.or.jp

181516-1001※		18-6-6 R&D スタッフのための研究開発テーマ評価法の基礎知識	
会社名			
住所	〒 -		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

13:00

1. 研究開発テーマ・マネジメントを取り巻く環境

- (1) 21世紀の日本企業が置かれている現実
- (2) 日本企業が行く道
 - ・革新的なテーマの創出の必要性和不確実性
- (3) 日本企業の研究開発マネジメントの現状
- (4) 研究開発テーマ・マネジメントの重要性の増大

2. 研究開発テーマ・マネジメントの見極めのマネジメントの問題例

- (1) 評価者の属人的な評価尺度
- (2) 研究者の熱意の過度の重視
- (3) 不確実性を軽視した評価 など

《休憩》

3. 様々な研究開発テーマ評価法：具体的内容と特徴

<非財務法>

- (1) 直感法
- (2) 対話法
- (3) スコア法
 - ・BMO法
 - ・リスク-リターン法
 - ・STAR法

<財務法>

- (4) ディスカウント・キャッシュフロー法
 - ・NPV（正味現在価値）法
 - ・IRR（内部収益率）法
 - ・ディスカウント・キャッシュフロー法を使う上での注意点
- (5) 回収期間法

《休憩》

4. 良い研究開発テーマ評価システムの要件

- (1) 個別の研究開発テーマ評価法『木』の限界：『森』をきちんと設計する
- (2) 『森』すなわち研究開発テーマ評価の基本フレームワーク
- (3) 良いR&Dテーマ評価システムの要件
 - ・不確実性・複雑性に対処しながらも分かり易い評価体系
 - ・評価者・担当者間で納得感・信頼感がある
 - ・事業・製品で成功するための重要なポイントをきっちりおさえている
 - ・革新的なテーマを正しく判断し意思決定ができる

5. 上の要件を踏まえた全体評価体系としてのステージゲート法

- (1) ステージゲート法とは？
- (2) ステージゲート法の11の工夫
- (3) ゲートでの評価項目
- (4) ゲートでの議論と意思決定法

6. 最後に

17:00

《質疑応答は講義中に随時・適時承ります》
《講師と同業、同職種の方のご参加は頂けない場合がございます》